



吉村ひろゆき

山村町長

山村町長が語る 広陵町の魅力と 今後の課題 吉村ひろゆきが 独占インタビュー！

先日『吉村ひろゆきと明日を語る会』YouTube チャンネルに広陵町長の山村吉由氏をゲストにお招きしました。山村町長は12年間町政に尽力されてきましたが、今、改めて振り返り、当時の事業への思いや狙いについてお聞きしました。これは広陵町の未来を考える上でとっても重要なお話となりました。

住民と行政の距離を縮める。 広陵町のコミュニティカルテ戦略

吉村 平成29年に小学校区単位での課題を整理したコミュニティカルテを作成されたが、この思いは？

山村町長 町はゴミ処理問題で苦労した歴史があり、住民とのコミュニケーションが取れていないと痛切に感じました。住民と行政の距離を縮めようと思い、一期目に地域担当職員制度を公約に導入しました。職員が地域の皆さんにヒアリングしてコミュニティカルテを作りました。このプロセスが大事だと進めました。

新たな雇用創出へ 箸尾準工業地域工業用地の開発、その狙いと展望

吉村 町長は箸尾準工業地域工場用地の造成事業を進めてこられ、もうすぐ完了します。この開発の狙いはどこにあるのか？

山村町長 これは私が掲げてきた「豊かな町」づくりの一環です。2020年6月に造成事業の計画書を作り、皆さんの努力で実ってきました。豊かな町にするには働く場所が少ないという思いからです。9社の進出が決まり喜ばしいことです。町は靴下産業など中小規模の事業者が多く、衰退気味でしたが、中小企業・小規模企業振興基本条例を制定して企業と行政の距離を縮めています。

農業塾の立ち上げ。そして古都華（いちご）へ

吉村 農業振興についてはどうでしょうか？

山村町長 昔、広陵町はいちごとナスの産地でしたが、いちごは一度、消滅していました。利益をあげる農業をやらないとダメだと思い、県OBのいちご専門家に来てもらい、農業塾の塾長になってもらいました。それから、いちごがどんどん作れるようになり、今では「古都華」というブランドのいちごの栽培が盛んになり、ふるさと納税の返礼品として人気になりました。農業の大規模化についてはナスの生産も進んでいます。

災害に強い町へ 広陵町の防災対策の取組

吉村 災害対策の現状は？

山村町長 前任の町長から災害に強い町にしようと取り組んできました。自主防災組織は全地域にでき、備蓄品も整えてもらっています。防災士の拡

充とネットワークづくりも進んでいます。2地区をモデルにし、災害対策として道路を広げる話し合いもしています。

若者が集う町。義務教育学校は必要

吉村 町長として三期目の公約の進み具合は何点ぐらいか？また、人口はおよそ35,000人ですが、維持するために足りていないことは？

山村町長 甘くみて60点くらいかなと。真美ヶ丘地区は人口減少の傾向です。若い人に来ていただくには教育施策をしっかり整備する必要があります。こども園の整備も終わったわけではありません。真美ヶ丘地区には中学校と小学校2校があり、これを義務教育学校にして、町の魅力を高める必要がありますが、これは大事業です。福祉部門も不十分で子育て支援にはもう一步独自の施策をやらないといけないと思います。

町制70周年を迎える、 新しいトップに期待することは？

吉村 町長は今期での退任を表明されました。新しいトップに期待することは？

山村町長 今年は町制70周年を迎えます。住民の皆さんと行政が深く関わる仕組みづくりが大切と思います。また職員と議会議員の協力がなければ何もできませんので、しっかり納得していただく努力が必要です。苦情も苦情も大事にすることが一番かなだと思いますし、その中に最大のヒントがあると思います。

吉村 山村町長は長く行政の中に身を置いてこられた。一方、議員経験はあるものの私は33年間、民間のサラリーマンとして過ごしてきました。そういう意味では、私は町長とは違う目線、違う感覚で行政を見ています。しかし、こういった違いこそが、新しい変化を生みだし、広陵町の新しい発展モデルを創ることにつながると考えます。



YouTubeでは、
山村町長とのインタビュー動画を
全編公開中です！ぜひご覧ください！
吉村ひろゆきと明日を語る会



広陵町が 住み続けたい街ランキング第1位に輝く！ 奈良県1位、関西圏では7位に！！



大東建託（株）賃貸未来研究所による「街の幸福度&住み続けたい街ランキング2024」が発表され、広陵町が『住み続けたい街（自治体）ランキング』で奈良県1位、また関西圏で7位にランクインしました。

豊かな自然環境と都市機能バランスが整い、子育てに力を入れているなど、多くの人々にとって魅力的な要素が揃っているという声があります。

田園風景や竹取公園・馬見丘陵公園といった広大な緑の空間、世界遺産に匹敵するレベルの古墳群。一方、大阪市内へは約30kmの直線距離にあり、都市へのアクセスも良好な立地、靴下製造業やプラスチック製造業の集積地と、“ほどよく都会 ほどよく田舎”というキャッチフレーズそのものです。

住み続けたいと感じる大きな要因。

その土台となっているのは、区・自治会での住民皆さまの活発な行動と、住民同士のつながりが強いことではないかと考えます。



しかし、町を歩き、声を聞くと、地域での課題や手つかずの問題、気づいていない懸念すべき事象などまだまだあります。世代の区別なく、住民皆さまの声や思いにしっかりと寄り添う姿勢が、これからの中づくりには必要と、吉村ひろゆきは考えます。

全ての人がずっと住み続けたいと思うまちを目指します！

吉村ひろゆきと明日を語る会

〒635-0824 奈良県北葛城郡広陵町疋相255-10
TEL 0745-44-9709 FAX 0745-44-9719

